

トランプ:ハリケーンがやって来る 10月11日

いよいよ、10月から11月上旬までの間に、トランプ大統領、ホワイト米軍、アースアライアンスによる、国家反逆者の大量逮捕が始まりそうです。  
アメリカ発の、ディープステートとホワイト米軍の激突は、全世界に波及してゆくことでしょう。  
世界中の人々は、大混乱し、経済活動や食料の移動も大混乱してゆくことでしょう。



FBI、トランプ氏家宅捜索で1万1000点以上の政府資料を回収  
ロイター編集 2022年9月3日

<https://jp.reuters.com/article/usa-trump-documents-fbi-idJPKBN2Q31ZM>

[ワシントン 2日 ロイター]-

米連邦捜査局(FBI)は、8月8日に実施したフロリダ州パームビーチにあるトランプ前大統領の邸宅「マールアラゴ」への家宅捜索で、1万1000点以上の政府文書および写真、「機密」と書かれた空のフォルダー48点を回収した。

ウェストパームビーチのアイリーン・キャンン連邦地裁判事が2日、裁判所記録を公開した。

前日には、押収品について第三者の立場で審査する「特別管理者」の選任を巡り、トランプ氏の弁護団および米司法省の担当者との口頭弁論が行われていた。

キャンン判事は、トランプ氏側が求めた特別管理者の選任に関する判断は現時点で見送った一方、司法省が提出した資料の公開には応じるとした。

ロイターの集計によると、1万1000点以上の政府文書および写真のうち、18点に「最高機密」、54点に「秘密」、31点に「機密」というラベルが貼られていた。

また、空のフォルダーが90点あり、そのうち48点には「機密」と書かれていた。なぜ空のフォルダーがあったのか、何か記録が抜けている可能性はあるのかなどは不明。



トランプ、味方に対して違法な司法省の召喚状を破棄するよう指示  
By Michael Baxter -2022年9月16日 ([Real Raw News](https://realrawnews.com)より翻訳)

[https://realrawnews.blogspot.com/2022/09/blog-post\\_16.html](https://realrawnews.blogspot.com/2022/09/blog-post_16.html)

反抗的なドナルド・J・トランプ大統領は木曜日、側近、盟友、スタッフに口頭で「FBIやその他の軍事化した司法省の支部から出されたあらゆる召喚状を直ちにシュレッダーにかけてくれ」と提案したと、マー・ア・ラゴの情報源が Real Raw News に伝えた。

トランプ氏の宣言は、FBIが彼の長年の仲間や友人40人に違法な召喚状や捜査令状を発行した数日後に行われた。その中には、マイピローのCEOマイク・リンデル氏の車両が、彼がアービーズ・レストランで食事を終えた後にFBIに包囲された事件も含まれている。いずれも、FBIが携帯電話やその他の電子機器を違憲に押収したのは、トランプ氏に2024年の選挙への参加を思いとどませ、同時に彼の最も熱心な支援者に対して消耗戦を仕掛けるという、広範な作戦(魔女狩り)の一環であった。

トランプ大統領は今、**政権は合法的な統治機関ではない**ので、司法省の付属機関にはトランプの盟友や、それどころかどんなアメリカ人も召喚する権限はないと言っている、と情報筋は述べている。

召喚状は法律の重みを持たず、執行不能である、と彼は付け加えた。

「これは陰謀であり、重罪の政権である。トランプ大統領は、違憲の命令に従う必要はないことを人々に知ってほしいと思っている」と続けた。

トランプ氏は木曜日の夜、FBIのヒットリストに次に載るかもしれないと述べた100人以上の人物に電話をかけ、その人たちに連絡を取った。彼は、司法省の召喚状を遵守する人は、おそらく無意識のうちに、自発的にそうしているのだと話した。彼は、バイデンカルテルが憲法を著しく蔑ろにしていることを非難し、武器化した司法省は言論の自由を抑圧し、修正第4条に違反することに何のためらいも感じないと述べた。

「やりたいことをやるのは勝手だが、それに従えば、非常に悪い連中を認め、正当化することになる」と、トランプは言ったという。

いくつかの電話で、トランプ氏は今週初め、ダレス国際空港で個人的なパイロットであるジョン・ダンキン氏がFBIから嫌がらせを受けたという話をした。トランプ氏がバージニア州のゴルフ場を訪れた際、FBI捜査官が空港内のレストランでダンキン氏を追い詰め、召喚状を渡して携帯電話を引き渡せと要求したのだという。ダンキン氏は、私有財産をやみくもに引き渡さず、トランプ氏に電話で相談した。「嫌がらせをされているのか、ジョン？」とトランプは言った。「これはとんでもないことだ。この国はこんなことは見たことがない。どうすればいいかは分からないが、ジョン、もし私が君だったら、彼らの顔にシュレッダーをかけるね。」情報筋によれば、ダンキン氏はまさにそれを実行し、FBIは慌てたものの、ダンキン氏の携帯を持たずに立ち去ったとのことだ。

「大統領のパイロットを狙ったということは、1月6日どころの話ではないのでしょう。トランプに近い人物を狙って、脅し、トランプを孤立させようとしているのです。トランプが話した全員がジョン・ダンキンのように図太いわけではありません。何人かは、名前は挙げないが、怖いと言っていました」と我々の情報筋は語った。

トランプが話した人の中には、FBIは彼らを起訴する力がないという彼の考え方に異議を唱えた人もいたと、我々の情報筋は付け加えている。彼らは家族のことを考えなければならないし、キャリアもある。彼らは軍の保護を受けておらず、トランプがディープ・ステートの報復から自分たちを守ってくれるという絶対的な保証を望んでいると主張した。

1月6日に議事堂(人民の家)を訪問したために司法省が不当に投獄した、勇敢で勇敢な愛国者たちを解放できないトランプを嘆く人もいた。「彼らを守れなかったのに、どうして我々を守るのか」というメッセージだった。

トランプは、1月6日に関与したAntifaの活動家とは対照的に、真に愛国的なアメリカ人はいずれ正当性が認められ、完全な恩赦を受けることになるだろうと答えた。

「バイデン政権で起きていることはすべて事実無根であることを、トランプは彼らに知らせたかった。

ディープ・ステートは簡単に挑発する-それは事実だ。トランプはそれに対するまともな姿勢を望んでいる。

ディープ・ステートは、盲目的なコンプライアンスによって力を得ている。抵抗が大きければ大きいほど、強くなる」と情報筋は言う。



トランプ: 嵐がやってくる!

By Michael Baxter - 2022年9月16日 (Real Raw Newsより翻訳)

[https://realrawnewsj.blogspot.com/2022/09/blog-post\\_22.html](https://realrawnewsj.blogspot.com/2022/09/blog-post_22.html)

火曜日に、ドナルド・J・トランプ大統領は、"The Storm is Coming"と書かれた襟章をつけた自身の画像を再投稿した。

マー・ア・ラゴの情報筋がReal Raw Newsに語ったところによると、これは、トランプの有権者に、「沼の水を抜く」という公約の一環として、ディープ・ステートの資産をホワイト・ハットが選択的にターゲットにして排除し、今後さらに多くの大量逮捕が予定されていると知らせるメッセージである。

情報筋によれば、トランプは、アメリカ人が大切にしている権利と自由を侵食し、陰謀団のアジェンダを激しく批判する人物を偏見を持って標的とした犯罪政権に対して、**これまで以上に「全面的な」戦争を仕掛ける決意を固めている**とのことだ。トランプがこのピンバッジをつけることは、米軍のホワイト・ハット部隊に潜在意識的なメッセージを送ることになると彼は付け加えている。

トランプ氏のメッセージは、姿勢の逆転を意味する。

今年初め、彼は中間選挙が終わるまで大量逮捕を抑えるようホワイト・ハットの司令官たちに求めていた。

今、ディープ・ステートが中間選挙を盗むための計画を持っているという証拠とともに、トランプは、2021年1月20日より前に1807年の**反乱法**を発動することによって権限を与えられた軍隊に、トランプが作成を手伝った封印された起訴状に名前が載っている「**数千人の主要ターゲット**」を捕らえて収監するために必要なあらゆる措置を取るよう求めている。

これらの人物には、無数の政治家、有名人、小児性愛者が含まれ、その多くは、我が国の最も弱い層である子供たちに対して大量殺人や言いようのない犯罪を犯したと、関係者は語っている。

軍はこれらの凶悪犯を想像を絶する犯罪に巻き込む「膨大なデータ」を持っているという。

「今がそれだ。今がその時だ。トランプが暴動法に署名したことで軍に権限が委譲されたが、彼は今、軍が法の力をフルに発揮して悪人を裁き、この国の力を腐敗した傀儡政府ではなく、国民に返してくれることを願っている」と情報筋は述べた。

情報筋によると、トランプ氏はその後、米海兵隊のデビッド・H・バーガー將軍と直接話し、將軍は「これを待っていた」

と述べ、神と海兵隊、そして大統領への宣誓を尊重することを誓ったという。

バーガー將軍は、これまでトランプが大量逮捕を受け入れたがらないことに疑問を抱いていたホワイト・ハットの評議員たちが、今後は忠誠心を見直す可能性が高いと、トランプに語ったという。

バーガー將軍はトランプ氏に、「大統領、私たちはそれをやっています。私たちはあなたの背中を見えています。我々は嵐をハリケーンにします」と言った。



### 中間選挙に向けてスタンバイするEAS

By Michael Baxter -2022年9月18日 ([Real Raw News](#)より翻訳)

<https://realrawnewsj.blogspot.com/2022/09/eas.html>

ディープ・ステート民主党が、11月の中間選挙で勝利する(可能性がある)ために、ドナルド・J・トランプ大統領は、米軍に、**緊急警報システム(EAS)**を作動させるように暗示をかけるだろうと、ホワイト・ハットの情報源は、Real Raw Newsに述べた。

**EAS**は、以前は緊急放送システムと呼ばれ、戦時中にアメリカ人に警告するために1963年に設立され、後年、州や地方レベルの平時の緊急時に使用するために拡張された。つい最近まで、全米で最も卑劣な警察組織である連邦緊急事態管理庁がEASを管理していたが、昨年3月にFEMAのマウント・ウェザーの本拠地を堂々と襲撃した際に米軍のホワイト・ハット部隊がそれを押収してしまったのだ。

**EASが作動すると、ローカル放送やケーブルテレビ放送を無効にし、携帯電話に音声とテキストメッセージを送信するのである。**アンバー・アラート・システムや国立気象局の悪天候通知システムにやや似ているが、それよりも強力なシステムである。

ここ数か月、トランプ大統領とホワイト・ハットは、EASを具体的にいつ作動させるべきかについて意見が対立している。例えば、次のようなことだ。FBIがマー・アラゴを襲撃し占拠したとき、トランプ大統領は海兵隊のデビッド・H・バーガー將軍に、国家が包囲されていると言って、EASを起動するよう懇願した。

しかし、バーガー將軍は、自分のチームに相談し、孤立した事件は、不法かつ違憲であっても、国家の危機を構成すべきではないと主張した。もし、FBIがトランプの他の所有地に踏み込んだり、トランプを不法に拘束していたら、EASの作動を検討しただろう。トランプは最終的に、EASの早期発動は裏目に出て、ディープ・ステートの手にかかる可能性があるとし、バーガー將軍の評価に同調していた。

しかし、トランプ氏は、ディープ・ステートが中間選挙を制した場合、その結果が2024年の大統領選挙に影響するため、軍はEASを使用しなければならないと述べた。  
バーガー将軍はそれに何の問題も感じなかった。

ディープ・ステートが上院、州、地方の激戦区を席卷した場合、一連の出来事が起こる。勝者が発表されると、米陸軍サイバー軍と米軍MC軍サイバー空間軍が独自の調査を実施するのだ。上院・下院だけでなく、知事選や市長選も分析される。郡裁判官の結果でさえも、厳しい精査を受ける可能性がある。合同サイバー司令部は、聖域都市の不法移民が投票したかどうかも調べるだろう。

そして、もし選挙違反が証明されれば、ホワイト・ハットはEASを起動させるだろう。  
国旗を逆さに掲げた映像が、全国の携帯電話やテレビに映し出されるだろう。  
愛国者たちは、これを国家の危機のサインとして認識すべきだ。

情報筋はReal Raw Newsに、これは即座に武装を呼びかけるものと解釈すべきではない。  
軍は州や連邦の建物を襲撃し、反逆の役人を鎖につないで通りに引きずり出すときに市民が集中攻撃に巻き込まれるのを望まないからだ、と語った。

デビッド・H・バーガー将軍の事務所関係者がRRNに語ったところによると、「これは市民の蜂起のための時間ではないでしょう。愛国者たちは、国旗を逆さまに掲げ、言葉を広め、殺されることのないようにしたいのです。我々は、この日のために非常に長い間訓練してきた人たちがいます。  
もし、事態が悪化して愛国者の援助が必要な場合は、その旨を明記したフォローアップのメッセージを送ります。そうでなければ、アメリカの街角でワイルド・ウエスト(西部開拓時代の復讐劇)を見たくはないのです」と述べたという。

さらに、ホワイト・ハットは、愛国者が自分自身と銃器の自撮り写真をソーシャルメディアに投稿するのをやめてほしいと願っている。「このようなことをする人は、ATF(アルコール・タバコ・火器及び爆発物取締局)にドアを叩かせるようなものです。これは問題です。確かに、私たちには憲法修正第1条と第2条の権利がありますが、今はトラブルを招いている場合ではないのです。  
もし、最終的に助けが必要になっても、”もし”という言葉を強調しますが、銃器を没収された人たちを助けることはできません」と、情報筋は述べている。

11月8日の中間選挙までに、ホワイト米軍が決起するのか、中間選挙後にホワイト米軍が決起するのかは、明確ではありませんが、10月から11月中旬頃までにホワイト米軍がEAS(緊急警報システム)を発動して決起するのは確実なようです。

## エリザベス女王の闇が暴露される

9月19日にエリザベス女王の国葬が執り行われました。  
しかし、トランプ大統領のデクラス発動後には、女王の恐ろしい闇も暴露されてゆくことでしょう。

英国王室の悪魔崇拝儀式の犠牲者のジャネット・アーチャーが、レプティリアンのエリザベス女王を告発している動画が投稿されていました。

エリザベス女王とバチカンによる悪魔崇拝儀式については『デクラスとネサラ・ゲサラ③5月21日』の11～13ページでも詳細に解説していますが、下記に要点を掲載いたします。



エリザベス女王を暴露！前半 レプティリアンの悪魔的儀式  
[エンジェル美代子](#) 公開2022年9月11日 46,582ビュー

⑤

<https://rumble.com/v1jm0jp-93406021.html>

英国王室による悪魔崇拝儀式の被害者の命がけの告発です。Part1

英国王室は悪魔崇拝者で多くの子供たちを誘拐、拷問、虐待、生贄にしています。  
 ウィンザー城には3種類の地下牢があります。ハンティングパーティー、水による拷問、壁吊りなど。  
 3歳から8歳くらいの子供たちが大勢連れてこられています。警察官が連れてくるのです。  
 ハロウィーンは今月末ではないので、これは昨年にした動画なのかもしれません。  
 女王の死亡についても言及していないので..  
 こんなおぞましい真実を多くの方に拡散ください。  
 ベストニュースに9月9日2022年に投稿されていました。

記事のタイトルは、**ウィンザー城での爬虫類の女王の悪魔的儀式** 虐待犯罪を暴露しています。

<https://ameblo.jp/sano-miyoko/>



レプティリアンの女王を暴露！（後半）

[エンジェル美代子](#) 公開2022年9月13日 23,242ビュー

<https://rumble.com/v1jx30p-september-13-2022.html>

「女王とフィリップ殿下は人間ではありません。彼らはレプティリアンです。  
 彼らは人間からトカゲに変わるんです。自分の目でそれを見たんです。何回も見えています。」

ジャネット・アーチャーによる爬虫類の女王の暴露 日本語訳

レプティリアン帝国

悪魔崇拝の儀式を暴露する勇敢な被害者

世界中の行方不明の子供たちはどこに消えたのか？

ウィンザー城、バッキンガム宮殿、王族のお城やお屋敷に連れてこられ、虐待、性的暴行、生贄にされている  
 彼らはアドレナクロームが永遠に必要！！ 世界中の子供が狙われる！！！！！！

命がけの告発です。シェア、拡散ください。子供たちを救いましょう！！

ありがとうございます。

<https://ameblo.jp/sano-miyoko/>

『デクラスとネサラ・ゲサラ③ 5月21日』からの抜粋

エリザベス女王 と パチカンによる モホーク族 子供達 大量虐殺 がカナダで明らかに  
 独立系メディア E-wave Tokyo 掲載月日:2013年2月28日

<http://eritokyo.jp/independent/aoyama-col99982.html>

◆エリザベス女王とパチカンによるモホーク族の子供達の大量虐殺がカナダで明らかに

-By Alfred Lambremont Webre, JD, MEd (2011年10月8日) カナダのブラントフォードにて

モホーク族の為に1970年に閉鎖されるまで英国国教会(プロテスタント)とパチカン(カソリック)によって  
 運営されていたモホーク研究所の寄宿学校内で、モホーク族の子供達の集団墓地が地中探知レーダーに  
 よって発見された。

教会と国家の犯罪国際法廷の秘書であるケビンアネット牧師によると、モホーク族の研究所は1832年、イギリスの英国国教会によってモホーク族の子どもたちを投獄し、命を奪う為に設立された。

カナダで最も早く設立されたこのインディアンの寄宿学校は、1970年まで続いた。そして全寮制学校に入れられた**子供達の半数以上**は決して戻る事はなかった。子供達の多くは学校の周辺に埋められている。

地中レーダーによるスキャンによりモホーク研究所本館を閉じることになったが、1970年にモホーク研究所が閉鎖される直前、モホーク族の子供達の集団墓地の存在をカムフラージュし、またジュネーブ条約、国際刑事裁判所および協力国の裁判所などに大量虐殺と人道に対する罪で追訴される事を回避する為に**15から20フィートの土が運び込まれ、集団墓地の上にかぶされた**とモホーク族研究所は明らかにしている。

今年(2010年)の10月下旬、ベルギーのブリュッセルとアイルランドのダブリンにて「教会と国家の犯罪に関する国際法廷」(ITCCS.org)は、司法手続を開始する予定である。法医学的な証拠によると、この司法手続きは、人道に対する子供達への大量虐殺の罪を審理するためとされている。

故意に子供の大量虐殺計画と隠蔽工作に参加したとされるカナダと英国国教会のトップである**エリザベスウィンザー(現エリザベス女王)**と**教皇ヨセフラッツィンガー(前ローマ法王 ベネディクト16世)**らに対してこの司法手続は進められている。

裁判の公判は、もともとイギリスのロンドンで開催されるとされていたが、英国政府は理由もなしに犯罪に関する国際法廷の国務長官と主要な法律家とスタッフへの入国を拒否した。

モホーク研究所内での地中探知レーダーによって発見されたモホーク族の子供達の大量埋葬地は、目撃者であるウィリアム・クームズのビデオテープ証拠にもとづくものである。

それは1964年10月、カナダと英国国教会のトップである**エリザベス・ウィンザー**がブリティッシュコロンビア州にあるカムループスの先住民学校を訪れ、**10人の若い先住民の子供達を選び彼女の足にキスをさせている。伝えられるところによると湖のピクニックと称して彼らを学校から連れて行ったというものだ。その10人の先住民の子供達は、決して姿を見せることはなかった。**

エリザベス・ウィンザーに対する「子供達の虐殺を教会と国家の犯罪国際法廷」(ITCCS.org)に証拠を提供した**クームズ氏は2011年2月、殺害されている。**

幸いな事に、クームズ氏の証言は生前にビデオに録画され、裁判で有効なものになっている。儀式でモホーク族の子供達を拷問するため使う体を引き裂く形式の拷問台のような器具も現在閉鎖されているモホーク研究所内で発見されているとケビンアネット牧師は述べている。

モホーク族の地域社会における目撃者達は、子供達に対する拷問儀式において赤いローブの司祭達を見たことがあるとはっきり述べている。

これらの問題の共通類似点は、英国と英国国教会のトップである**エリザベスウィンザー**が関与していることにある。**彼女はこの組織的な大量殺害計画と儀式的拷問や英国国教会とバチカンにより運営された英国国教会の寄宿学校での殺人を個人的にも知っており、命令し、参加していたと推察される。**

インタビューでアネット牧師は、**カナダの主なメディアやカナダ政府は隠蔽工作を行い、モホーク子供達への大虐殺発見についても報道管制を続けている**と述べている。

**カナダ・モホーク族の子供達大量虐殺で市民法定はローマ法王らに有罪  
独立系メディア E-wave Tokyo 掲載月日:2013年2月28日**

<http://eritokyo.jp/independent/aoyama-col99981.html>

以下のニュース(概略)が飛び込んできました。添付した市民法定の判決文と2枚目の被告リストを見ると、どうもカナダ政府、英国国王、ローマ法王らが被告となっています。

過日、ローマ法王ベネディクト16世が突然法王を辞任しましたが、その理由は、どうもカナダにおけるアボリジニの子供達の大虐殺に関連した The International Common Law Court of Justice法廷での裁判において、2月25日、ローマ法王ベネディクト16世(本名:ヨーゼフ・アロイス・ラッツィンガー)と、英国王室エリザベス女王、そしてカナダのスティーブン・ハーパー首相らに対し下された判決に関連しているようです。

市民法定における判決は懲役25年(仮釈放なし)の有罪とのことです。ただし、法的拘束力はありません。

この市民法定における被告らの罪状は、カナダ国内において5万人以上の子どもが大虐殺されたと言うもので、彼らが信じる密教=表向きはカトリックでの祭事目的での生贄としてカナダに住む黄色人種のインディアン末裔の子供をたちを最近まで殺してきた歴史がみつかったというおぞましい内容です。

辞任を申し出たローマ法王の一件は、どうもこれが主たる理由のようです。ヴァチカン関連ニュースでも報じられています。また市民法定はエリザベス女王の一家に対しても財産没収が課したと伝えられています。またアメリカではマスコミ規制をおして事実を追求しようという動きになっているようで、少しずつ情報が漏れてきています。

### 続報:モホーク族大量虐殺裁判

独立系メディア E-wave Tokyo 掲載月日:2013年3月1日

<http://eritokyo.jp/independent/aoyama-col99985.html>

続報です。さらに調べたところ、判決を下したという"the International Common Law Court of Justice"は「国際慣習法裁判所」と訳されており、いわゆる市民法廷であって、判決結果に強制力はないことが分かりました。しかし、カナダ人の論考にある内容は市民法廷における審理のもととなっており、ローマ法王の退位と関係しているようです。

以下は市民法廷についての概要です。

◆ITCCSとは (International Tribunal into Crimes of Church and State)

教会と国家の犯罪に関する国際法廷、国際裁判所)は、国際と自然の法則の下に立って市民ベースの"良心の法廷"であり、ダブリン、アイルランドの教会拷問の生存者が2010年春に設立した「超国家的司法裁判所」。現在、15カ国の組織(創立スポンサーや関連会社)をもち、これまで不可侵で法的に訴える術のなかった「教会」や「国家(state)」の犯罪をコモンロー(慣習法)を根拠に裁く機関であるようです。

その法律顧問には、クアラルンプール人権裁判所、アンドリュー・パターソン、コモンローコンサルタント、アメリカとカナダの弁護士会のメンバー、およびニューヨーク市における憲法上の権利のための著名なセンターと弁護士のメンバーが含まれる。

2012年秋に、ITCCSは、ヨーロッパやアメリカの弁護士や政治家と一緒に、非人道的犯罪と子どもに責任を負うそれらの教官を審理するため、「正義に基づく国際慣習法裁判所」(ICLCJ: International Common Law Court of Justice)を設立した。

ICLCJは、宣誓した市民陪審員、法律上訓練された予審判事の陪審団および市民検察当局で構成されており、教会と政府によるカナダのジェノサイドの問題で、その協議事項表中のその最初の事件審理を終えた。



### エリザベス2世

2012年に、在位60周年記念で公開され、公式写真の一枚となった



### 前ローマ法王 ベネディクト16世

ローマ法王が退位を表明ー生前退位は数百年ぶり

## ウクライナの少女の告白

⑧



「すぐに町の中心が爆撃されるだろうな、  
と思っていたけど、本当にすぐそうになりました」

2022-10-04 [basil-q](#)

<https://ameblo.jp/basil-q/entry-12767605623.html>

ロシア軍とウクライナ軍の管理下での違いについて、クピャンスクの少女たちが語る。  
「ウクライナ軍が到着すると、すぐに町の中心が爆撃されるだろうな、と思っていたけど、  
本当にすぐそうになりました」

■ ママは6か月間、給料がもらえていなかったけど、ロシアの管理下になった時はロシアのお金が導入され、  
地元の人たちは少なくとも必要な品物を買うことができた。

■ ウクライナ軍が戻ってくると、すべての店が閉まった。  
今、クピャンスクの住民はパンを買うことも、仕事を見つけることさえできない。

■ このインタビューはネットで拡散されたが、ウクライナの視聴者は彼女たちを「裏切り者」と呼んでいる。

☛ 正直に話す人が「裏切り者」とされ、嘘や偽善ばかり並べる人が「ヒーロー」扱いされる世の中にうんざり。

出典: [Juan Sinmiedo/Fearless John](#)

## 海底パイプライン ノルド・ストリームでガス漏れ

ノルドストリームは、ロシアとヨーロッパの間のバルト海の下を通る2本の天然ガスパイプライン



ノルド・ストリームでガス漏れ ウクライナはロシアの「テロ攻撃」と非難

2022年9月28日 BBC NEWS JAPAN

<https://www.bbc.com/japanese/63056758>

ロシアと欧州をつなぐ海底パイプライン「ノルド・ストリーム1」と「ノルド・ストリーム2」から天然ガスが漏れ出した。  
ウクライナは27日、ロシアによる「テロ攻撃」と非難した。

ウクライナのミハイロ・ポドリャク大統領顧問は、ノルド・ストリームに損害を及ぼすことは欧州連合(EU)への  
「攻撃」と指摘。ロシアは冬を前にパニックを引き起こそうとしているとし、EUに対しウクライナへの軍事支援を  
拡大するよう求めた。

地震学者は、ガス漏れが発覚する前に海中で爆発を観測している。

スイスの国立地震センターのビョルン・ルンド氏は地元メディアに対し、「爆発が複数回あったことは間違いない」  
と話した。

ノルド・ストリーム2の運営会社は、26日午後パイプラインの圧力が低下していると警告。

これを受けてデンマーク当局は、ボルンホルム島周辺の航行を避けるよう船舶に警告を発した。

ノルド・ストリーム1の運営会社も、パイプラインが1日で「前例のない」損害を一斉に受けたと発表した。

デンマークの国防司令部は、バルト海のボーンホルム島近くで天然ガスが漏れ出し、海面に泡が立っている  
映像を公開した。これにより、直径1キロにわたる範囲で、海上での往來に影響が出たという。



ウクライナのポドリャク大統領顧問は「ノルド・ストリーム1のガス漏れはロシアによるテロ攻撃であり、EUへの攻撃にほかならない。ロシアは欧州の経済状況を不安定化させ、冬を目前にパニックを引き起こしたいのだ」と、英語でツイートした。

その上で、ドイツをはじめとする欧州の同盟国に、ウクライナへの軍事支援を拡大するよう求めた。「最善の対応と安全への投資は、ウクライナへの戦車供給だ。特にドイツ製の」と、ポドリャク氏は付け加えた。

欧州各国の首脳も、パイプラインの損害は故意によるものだと指摘している。

ポーランドのマテウシュ・モラウィエツキ首相はパイプラインが破壊されたとして非難し、おそらくウクライナでの戦争に関連していると述べた。

デンマークのマッテ・フレデリクセン首相は、結論を出すのは早いですが、複数のガス漏れが偶然であるとは考えにくいと話した。

### 故意の攻撃の可能性

こうした中、ドイツのメディアは不確実な情報として、当局が海底送ガス網への攻撃があったとの見方を排除していないと報じている。

ロシアのドミトリ・ペスコフ大統領報道官は、この件を「非常に懸念している」と発言。故意の攻撃である可能性は否定できないと述べた。

EUはこれまで、ロシアがウクライナ侵攻で受けた制裁に対抗するため、天然ガス供給を経済的兵器として使っていると非難してきた。

ロシアはこの疑惑を否定し、制裁によってガスインフラを正常に維持できなくなったと述べている。

今回の損害の原因が何であれ、欧州へのガス供給にすぐ影響があるわけではない。

現在、両パイプラインは操業を停止している。

ロシアは保守点検のためにノルド・ストリーム1を停止しており、8月以降、欧州にガスを運んでいない。

ノルド・ストリーム2は、2月のウクライナ侵攻開始を機に停止された。

ただし、操業していなくてもパイプライン内にはガスがたまっている。

現在、ドイツとデンマーク、スウェーデンの各当局がこの件を調査している。

デンマークのエネルギー当局はロイター通信に対し、ガス漏れは数日から1週間にわたる可能性があるとして述べた。

パイプラインの運営会社は、**システムインフラがいつ復旧するか推測できない状況だ**としている。

ウクライナ侵攻以降、エネルギー価格は上昇し続けており、ガス不足でさらに加速するとみられている。

これまでガス供給の多くをロシアに依存していたEU加盟国では、今冬の暖房代をまかなえないのではと懸念する家庭が増えている。

ポーランドはロシアへの依存から脱却するため、ノルウェーとの間に新たなガスパイプライン「バルティック・パイプ」を設置・開通させた。ポーランドやスロヴァキア、チェコなどにガスを供給する。

(英語記事 [Ukraine accuses Russia of pipeline terror attack](#))

### ホワイト米軍がノルドストリーム爆破犯人を逮



P-8ポセイドンの乗組員がノルドストリーム爆発事故との関連で逮捕される  
By Michael Baxter -2022年10月7日 ([Real Raw News](#)より翻訳)

<https://realrawnewsj.blogspot.com/2022/10/p-8.html>

ノルドストリームパイプラインの現在損傷している部分をオーバーフライトした米海軍P-8ポセイドン対潜水艦のパイロットと乗組員は、木曜日の夜、米軍の憲法学者一派によって逮捕されました；  
ホワイトハットの情報源はReal Raw Newsに伝えた。

ノルドストリームは、ロシアとヨーロッパの間のバルト海の下を通る2本の天然ガスパイプラインである。ノルドストリーム計画は、パイプラインが欧州におけるロシアの影響力を強めるという懸念から、一部の中東欧諸国や米国が反対してきた。

2022年9月26日、NS1とNS2のパイプラインは、国際海域での水中爆発に起因するほぼゼロまでの大きな圧力低下を複数回経験し、稼働不能となった。

レーダーによる追跡と公開されている飛行追跡ソフトウェアにより、爆発が起こった場所の上空にP-8が1機だけ存在することが確認され、それ以外の航空機は爆発が起こった時刻に存在しないことが判明した。

話を進めよう。今週RRNは、JAG捜査官が水曜日に無関係(ノルドストリーム爆破とは)の容疑で逮捕したアメリカ空軍大佐ブレイン・L・ベーカーに関する記事を2つ掲載した。

しかし、ベーカーの過去を総合的に調査したところ、偶然にも、彼は空軍将校でありながら、ディープ・ステートの商品(?)として知られ、合衆国憲法を裏切るカルロス・デル・トロ海軍長官と何度も電子的に連絡を取り合っていたことが明らかになったのだ。

情報筋によると、ベーカーとデル・トロの間の通信はほとんど良性であった。しかし、3つの通信は特にウラジミール・プーチンと西ヨーロッパに対する彼の「絞め殺し」に対する憎悪について議論していた。

ベーカーはあるメールで、「...ノルドストリームを破壊すれば、ヨーロッパはプーチンの氷の支配から解放されるだろう」と書き、デル・トロに、その目標を達成するために政権が軍備の使用を認可すると思うか、と尋ねた。

デル・トロは、そのために必要な空軍と海軍の戦力をリストアップして答えた。海上自衛隊の航空機と潜水艦は、デル・トロの回答の中で言及された。

米海軍法務長官団は、この書簡はベーカーがノルドストリームに損害を与えたと信じるに足る根拠があると述べている。この告発は、予想通り、犯罪者バイデン政権と大手メディアが国民に伝えてきたこと、つまりプーチン大統領がノルドストリームの破壊を命じたということと真っ向から対立するものである。

しかし、もしそれが本当なら、プーチンは自分の収入源を潰してしまい、本質的に自分の足を撃つことになるからだ。もしプーチンがヨーロッパの天然ガスを拒否したいのであれば、彼は単に自分の側のバルブを閉じることができたはずだ。

水曜日の夜、グアンタナモ湾のJAG調査官はベーカーに答えを求めたが、彼は口を閉ざし、

彼が取った「かもしれない」行動も民主主義を守るという名目で行われたものだと述べた。

「沈黙だけで有罪と判断してはならない。だが、ベーカーの沈黙と曖昧な供述は、電子メールと相まって、追求する十分な理由となった。実用的な情報、実質的な証拠を得たのだ。P-8の乗組員が必要だったのだ」と情報筋は述べている。

その翌日、特殊作戦部隊を含む米軍のあらゆる部門のホワイト・ハットが、運命的な任務を遂行した9人を逮捕するための極秘作戦を開始した。その中には、パイロットと副パイロット、リリーフパイロット、そしてP-8の広範なセンサー群をモニターしていた5人の乗組員も含まれていた。

情報筋は彼らがどのように拘束されたかは語らなかったが、作戦は滞りなく行われ、9人全員が拘束され、「安全な場所」で尋問を受けているか尋問を待っているところだと述べた。

反乱軍の潜水艦の関与について尋ねると、情報筋は回避的にこう答えた。「今は何も言うことはない。このパズルは少しずつ解けてきている」と。

ホワイト米軍は、水面下で国家反逆者や児童虐待者の逮捕を続けています。アメリカだけでなく、イギリスや他の国々でもアースアライアンスが水面下で逮捕活動をしているようです。ホワイト米軍の決起後に、DSの悪行の全てが、全世界に知れ渡ってゆくことでしょう。



